小単元名 p.58～60	①選択Ａ 火事から くらしを守る	小単元の 目標	火災からくらしを守る取組を調べ，わたしたちが安心して生活できるようにするための関係機関の働きと，そこで働く人々の工夫や努力を考えるようにする。

つかむ

p.58

◎火事が起きたら−学校の消防設備

・写真やVTRを活用し，火事の恐ろしさに目を向けさせるとともに，身近な消防設備を調べさせることによって，小単元の学習への関心を高める。
・学校にある消防施設や設備の写真を教師があらかじめ撮っておき，名前や場所をクイズ形式で子供たちに質問する方法も考えられる。

学校が火事になったら，だれがどうやって消すのかな？

消防署の人たちがどんな仕事をしているのか調べてみたいな！

学習問題
火事から人々のくらしをまもるための消防署の仕組みについて調べましょう。

調べる

p.59

◎ いざというときのために
ー消防署の取組ー

〈消防署の見学〉
どんなことを見たり，聞いたりするか，見学の前に子供たちに決めさせておく。

〈事前指導の内容〉
準備物
見学の視点や質問の内容
挨拶や話の聞き方
「見学カード」への記入の仕方
インタビューの仕方

※消防署の見学が実施できない場合は，教科書や副読本，ｗｅｂなどの資料を活用して調べ学習に取り組ませる。

p.60

◎ 火事をふせぐためにできること

火事を防ぐための消防署や地域の人々がどんな努力をしているのか調べる。

〈消防団について〉
消防団の取組について説明し，地域にも安全を守っている人がいることに気付かせる。可能であれば，消防団の人を招いて直接話を聞くとよい。

※情報コーナー

仙台市消防局	２３４－１１１１
青葉消防署	２３４－１１２１
宮城野消防署	２８４－９２１１
若林消防署	２８２－０１１９
泉消防署	３７３－０１１９
太白消防署	２４４－１１１９

まとめる

p.60

◎ 標語を考えたりポスターを作ったりしよう

・学習したことをもとに，自分たちにできる防火の取組を考え，発表させたり，標語やポスターで表現させたりする。
・防火につながるキーワードを発表させ，それをつなぎ合わせてクラス標語を作る活動なども考えられる。

教科書の活用

○　見学のまとめの活動は，自分たちが調べてきたことだけでなく，教科書と副読本も活用しながら取り組ませたい。特に，火事が起きた時の連絡の仕組については，教科書を使って確認させることで，理解を深めることができる内容である。

p. 58, 59	大単元名	4　くらしを守る	小単元名	①選択Ａ　火事からくらしを守る

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは，関係の諸機関が連携して消火や救助に当たるなど，一刻を争って事態に対処していることに気付き，自分の生活と関連付けながら，防火に対する意識を向上させ，実践的な態度を養うことである。導入段階では火事の恐ろしさに目を向けさせる。次に，身近な防火設備を調べることによって，計画的な防火対策を行っていることに気付かせる。学習活動に消防署見学を取り入れるとよい。

写真「火災・消火活動」
写真や VTR で火事の恐ろしさを捉えさせるとともに，消火活動を行う消防士に着目させることで，消防の仕事について関心を持たせる。

写真「学校の消防せつび」
クイズ形式になっている。興味・関心を持たせた後，学校にもこのような施設があるか調べさせる。校舎配置図などを提示し，まとめさせる。

本文「教科書で調べてみました」
連絡の仕組みについては，教科書でも学習できる。
なお，仙台市では青葉消防署に消防情報センター（通信指令室）がある。

※情報コーナー

消防探検　京都市消防局
http://www.city.kyoto.lg.jp/shobo/

かすがいしのしょうぼう（子ども向け）
http://www.city.kasugai.lg.jp/

写真「訓練の様子」
火事が起きたときを想定し，普段から訓練していることに気付かせる。
※消火→濃紺　救急→灰色
救助→橙色と仕事の内容によって制服の色が決まっている。

「消防士さんの話」
いち早く現場に駆けつけるための努力に気付かせる。

※情報コーナー

仙台市消防局	234-1111
火災情報テレホン	234-0119
青葉消防署	234-1121
宮城野消防署	284-9211
若林消防署	282-0119
泉消防署	373-0119
太白消防署	244-1119
宮城消防署	392-8119

p. 60	大単元名	4　くらしを守る	小単元名	①選択Ａ　火事からくらしを守る

写真「防災訓練」「火災予防運動」
各団体に出向き，火災予防に対する指導を行ったり，市民に対する広報活動を充実させたりして，火災を防ぐ取組をしていることを理解させる。

本文「消防団の人の話」
消防団について説明し，地域にも安全を守っている人がいることに気付かせる。また，可能であれば消防団の人を招いて話を聞くとよい。

＜消防団について＞
普段は別の職業で活躍している人たちが，地域で災害が発生すると消防団員として災害活動に当たる仕組みになっている。
仙台市の消防団は市内の消防署ごとに設置され，7 消防団，約 2,000 人の消防団員で構成されている。うち，女性消防団員は約 100 人である。

写真「みんなが考えて作った防火ポスター」
調べたことや学習したことを基に，自分たちにできる防火の取組を考え発表させたり，標語やポスターなどで表現させたりする。

小単元名 p.61～65	①選択Ｂ 地震からくらしを守る	小単元の目標	地震(津波)からくらしを守る取組を調べ，わたしたちが安心して生活できるようにするための関係機関の働きと，そこで働く人々の工夫や努力を考えるようにする。

つかむ

p.61
◎ 東日本大震災
・写真や新聞記事を活用し，地震（津波）の恐ろしさに目を向けさせ，小単元の学習への関心を高める。
・大震災によってどんな被害を受けたか，人々の生活にどんな影響があったかなどを，子供たちに話し合わせる方法も考えられるが，現在も心のケアが必要な児童がいることを考え，十分に配慮して授業を行う。

大きな地震で，わたしたちも被害を受けました。

地震や津波に備えてどんな準備をすればいいのかな？

学習問題
東日本大震災によって，どのようなことが起きたのでしょうか。

調べる

p.62
◎ 地震が起きたとき…
仙台市役所を中心とした地震が起きた時の連絡の仕組みについて説明することで，関係機関が協力して救助・復旧作業に当たっていることを捉えさせることができる。
破損した水道管やガス管などの復旧工事には，兵庫県や新潟県をはじめ，全国からの応援があった。

p.63
◎ 地域の協力
災害時に備え，町内会では自主防災組織を作り物資の備蓄や訓練などを行っている。

p.63
◎ 救助・救援活動
地震が発生した後には，自衛隊員や消防署員，水道局・ガス局の人など，たくさんの人たちが救助や救援，復旧工事に取り組んだ。また，全国から多くの人たちがボランティアとして応援に駆けつけた。

p.64
◎ 地震に備える
地震からくらしを守るために，学校や地域，仙台市で行っている取組（避難訓練，防災訓練，備蓄倉庫等）について調べ，まとめる。

p.65
◎ わたしたちにもできることを
市内各小中学校で行われている「復興プロジェクト」の取組について取り上げる。また，災害が発生した際に，自分たちにできることは何かを新防災教育副読本とも関連させながら，考えさせる。

まとめる

p.64
◎ 家族防災会議を開こう
・家族で防災のための取組としてどんなことを話し合ったかを発表し合い，災害への備えとして何が必要かを全体で話し合う。

教科書の活用

○ まとめの活動として教科書 30～31 ページの「市や地いきの取り組みをまとめる」に取り組ませることが考えられる。また、仙台市の新防災教育副読本と併用して学習することも可能である。

p. 61	大単元名	4　くらしを守る	小単元名	①選択Ｂ　地震からくらしを守る

巨大地震（東北地方太平洋沖地震）の概況

○発生日時
　平成 23 年 3 月 11 日　14:46
○震央地名
　三陸沖
○規模
　マグニチュード 9.0（暫定値）
○市内震度
　震度６強（宮城野区）
　震度６弱（青葉区，若林区，泉区）
　震度５強（太白区）
○津波
　太平洋岸に大津波警報発令
　津波の高さ 7.2m（推定）
　　※詳細は仙台市発表資料を参照

写真「市内西部の団地」（青葉区）
　丘陵地域の宅地で，崩落・地滑り等が発生した。
　※昭和 30 年代後半～40 年代に造成

新聞「震災１ヶ月　死者１万 3013 人」
　新聞社では災害時などを想定し，緊急時新聞相互支援協定を締結している。河北新報社も震災当日，紙面制作システムが動かせない事態となり，新潟日報社に号外と翌日の朝刊の紙面制作を依頼し，新聞の発行を続けた。

p. 62, 63	大単元名	4　くらしを守る	小単元名	①選択Ｂ　地震からくらしを守る

図「地震が起きたときの連絡の仕組み」
　仙台市を中心とした取組を調べる。関係機関が協力して救助・復旧作業に当たっていることを捉えさせたい。

写真「他県から給水車が応援」
　20 大都市は，災害が発生し被害を受けた都市独自で応急措置が不可能な場合，被災都市の要請に応える協定を結んでいる。これは，被害を受けていない都市が，友愛的精神に基づき，相互に救援協力し，被災都市の応急対策及び復旧対策を円滑に遂行するために締結された協定である。

〈20 大都市とは〉
　札幌市，仙台市，さいたま市，千葉市，東京都，川崎市，横浜市，相模原市，新潟市，静岡市，浜松市，名古屋市，京都市，大阪市，堺市，神戸市，岡山市，広島市，北九州市，福岡市

本文「連合町内会長さんの話」
　災害時に備え，町内では防災組織を作り，物資の備蓄や訓練などを行っていることを捉えさせる。また，災害発生時には地域の協力が不可欠であることを知らせ，自分たちにもできる活動があることに気付かせたい。

写真
　食料品や日用品の買い出しや給水車の出動，自衛隊による病院の開設など，震災後の様子を振り返る際の参考にさせたい。

本文「多くの人たちが働いてくれました」
　市民のために，多くの人たちがそれぞれの立場で働いていたことに気付かせる。また，その人たちの思いにも触れていきたい。

p. 64, 65	大単元名	４ くらしを守る	小単元名	①選択Ｂ 地震からくらしを守る

吹き出し「防災訓練に参加しています。」
　地域の一員として自分たちに何ができるのか，防災教育と関連させながら考えさせていきたい。

本文「わたしたちにもできることを」
　避難所では，多くの小中学生が避難所運営の手伝いなどを進んで行った。実際に活動したり，その様子を見たりした経験を基に，自分たちにもできることを話し合わせたい。
　また，市内各小中学校で行われた「復興プロジェクト」についても取り上げたい。

本文「仙台市地域防災計画」
　仙台市の地域防災計画には，津波に対する備えの充実，市民による減災，避難体制・避難所運営体制，災害時要援護者，帰宅困難者対策，物資対策などが定められている。

トピックス〈むかしからの言い伝え〉
　市内や県内には，先人たちが残した津波に関する言い伝えや，歴史を今に伝えるものなどが多く。
　浪分神社や蛸薬師もその一つである。地域に言い伝えがあれば，児童と共に調べたい。

本文「家族防災会議を開こう」
　地震に備えるためには，家族で話し合って避難場所や連絡の取り方などを決めたり，定期的に持ち出し品などを確認したりすることが大切である。
　仙台版防災教育副読本の小学校４・５・６年 p. 40～41 を活用して実際に，家庭で話合いをさせて自助の姿勢を育てたい。

小単元名 p.66～69	②事故や事件から くらしを守る	小単元の 目標	事故や事件からくらしを守る取組を調べ，わたしたちが安心して生活できるようにするための関係機関の働きと，そこで働く人々の工夫や努力を考えるようにする。

つかむ

p.66

◎ 事故や事件から人々を守る。

・写真を活用して地域の安全を守るための取組について発表し合い，小単元の学習への関心を高める。

・「まもらいだー」の方や地域にある交番の警察官などをゲストティーチャーとして招き，話を聞くという活動も考えられる。

事件や事故が起きてしまったら，どうすればいいのかな？

警察署の人たちがどんな仕事をしているのか調べてみたいな！

学習問題

わたしたちが「安全」に「安心」してくらせる仕組みを調べましょう。

調べる

p.67

◎ 交通事故をふせぐために

〈仙台市の交通事故の数〉―グラフ―

・グラフから交通事故の件数やけがなどをした人の数が減ってきていることを読み取りその理由を調べたり，考えたりする。

〈交通管制センターの見学〉

・宮城県警察本部内にある施設で，１１０番を取り扱う通信司令室に併設しており，併せて見学できるようになっている。

〈交通事故の時の連絡の仕組み〉

・前小単元の学習と関連させながら，県警察本部を中心にいろいろな役割を持った人たちが協力して事故を処理していることに気付かせるようにする。

p.68

◎ 事件をふせぐために

・事件を防ぐための警察署や地域の人々の取組について調べる。

〈仙台市のあきすの数〉―グラフ―

・空き巣の件数が平成21年に比べて減少していることをつかませ，事件を防ぐ取組について調べたり，考えたりする。

・自分たちが住んでいる地域にも，「防犯ボランティア」や「こども110番の店」「交通指導隊」など，まちの安全を守るための取組があることを紹介する。

＊情報コーナー

宮城県警察本部 221-7171

http://www.police.pref.miyagi.jp/

まとめる

p.69

◎ 安全に安心してくらせるまちに

・まちの安全を守るために，自分たちにできることは何かを大単元で学習したことを生かして考えさせたい。表現活動としては，防犯標語やポスターづくり，安全安心マップの製作などの活動が考えられる。

教科書の活用

○ 教科書には，「仕事さがしメモ」や学習のまとめ方，「まちの安全マップづくり」などついて紹介されている。子供が問題解決的な学習をする際の参考にさせたい。

p. 66, 67	大単元名	4　くらしを守る	小単元名	②　事故や事件からくらしを守る

【小単元の指導に当たって】

本小単元のねらいは，地域社会の人々の安全を守るための関係機関の働きに気付き，従事している人々，地域の人々の工夫や努力を理解することである。導入段階でゲストを招くなどの工夫をし，地域の安全を守っている人々の取組を調べる学習課題を設定する。前小単元との関連を図りながら，身近な生活から「安全」について考えさせていく。小単元のまとめの段階では，学区内の「安全安心マップ」作りなどの活動を取り入れるとよい。

写真
　写真を基に話し合わせ，自分たちのまわりには，安全を守る人がいることに気付かせる。

キャラクターの吹き出し
　ここでは二人の会話から警察署の仕事に絞り込んでいくようにする。

グラフ「交通事故の数」
　交通事故はなかなか減らないことを読み取り，事故を防ぐ取組が必要なことに気付かせたい。

写真「白バイ・パトカーのパトロール」「区民まつりでの呼びかけ」
　市民に対する広報活動を充実させ，交通事故を防ぐ取組をしていることを理解させる。

図「交通事故の時の連絡の仕組み」
＊人身事故のときの対応例
　県警察本部を中心とした事故発生時の連絡の仕組み，関係諸機関の協力に気付かせる。
　また，事故に素早く対応するための工夫についても気付かせる。

写真「宮城県交通管制センター」
　宮城県警察本部内にあり，仙台市内及び周辺の信号機を制御している。車両感知器やテレビカメラを通して道路の渋滞状況が分かるようになっている。
　110 番を取り扱う通信司令室に併設しており，併せて見学が出来るようになっている。

＊情報コーナー＊

宮城県警本部	221-7171
http://www.police.pref.miyagi.jp/	
泉警察署	375-7171
仙台北警察署	233-7171
仙台中央警察署	222-7171
仙台東警察署	231-7171
仙台南警察署	246-7171
日本道路交通情報センター	050-3369-6666

p. 68, 69	大単元名	4　くらしを守る	小単元名	②　事故や事件からくらしを守る

グラフ「あきすの件数」
　空き巣の件数は平成 21 年から，減少している。事件を防ぐための取組に目を向けさせるための資料とする。

学び方コーナー
　算数で学習した棒グラフの読み取りが確実にできるようにする。

図「事件の時の連絡の仕組み」
　この図を基に，事件に素早く対応するための工夫について気付かせる。

学習課題「安全に安心してくらせるわけを考えてみましょう」
　大単元を通して考えさせるようにした。関係機関で働く人の工夫や努力はもちろん，自分の家族を含めた地域の人も力を尽くしていることを考えられるよう工夫する。
　また，安全に暮らすために自分たちが気を付けなくてはならないことなどを考えさせる。

図「安全安心マップ」
　学校周辺を調べ，安全を守る施設や危険箇所などをマップにまとめる活動につなげてもよい。本誌の例は，市民センターや地域のボランティアとの連携による活動である。